

令和2年度 長崎県教育振興会議報告書

長崎県教育委員会

**「第三期長崎県教育振興基本計画成果指標の達成状況」及び
「事業群評価数値目標の達成状況」に関する意見等**

1 ふるさと教育の推進について

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		先生方は自分の学区のことはよくご存知だが、今の長崎県の経済面や頑張っていること等を先生方がもっと勉強する機会があればと思う。研修の中にまず先生方の意識を変える、教養を深める講座を入れ込む必要があると思う。
○		ふるさと教育に先人の教えを結び付けて、将来の長い若者たちへの夢を育んでもらえればと思う。
○		夢や憧れを育むようなふるさと教育やキャリア教育について、今考えの方向性や取組はあるのか。
○		<p>社会に開かれた教育課程の実現が新しい学習指導要領で求められている。学校は学校だけで子育てを考えていたのではないか、もっと社会の要求を踏まえながら学校は子育てを考えていかなければならないという方向性の中で、学校教育を展開している。</p> <p>そして、長崎県の独自の取組として展開しているのが、ふるさとを活性化するキャリア教育充実事業であり、現在、県内の8地区8校の中学校でその実証検証を進めており、今後はこの取組を県内に広げていきたいと思う。</p>

2 外国語教育の推進について

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		英検3級は、私も受けたような気がするが、その当時の英検と現在の英検が同じレベルなのか。もし、昔の英検3級と同レベルであれば、果たしてこれがグローバル化に繋がっているのかなという疑問が正直ある。
○		英検のレベルは、委員が中学生の時と変わっていないと思う。ただ、扱われている英文の内容や2次試験での応答で自分の意見を述べる等の試験の中身は変わっている。英検3級は国際的な指標で言えば、CEFRのA1レベルとなり、TOEICやTOEFL、英検といった検定の中で、中学校卒業段階で身に付けるべき英語力として、国が指標と示しているものである。

**「第三期長崎県教育振興基本計画成果指標の達成状況」及び
「事業群評価数値目標の達成状況」に関する意見等**

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		パフォーマンステストということが最近言われますが、子どもたちが書いたり話したりする活動がどれくらい高まってきたかを見るものであるが、高等学校では書いたり話したりする活動は今どういう形で行っているのか。
	○	現行の学習指導要領は令和4年度から新しい学習指導要領となり、英語の授業は、基本的に英語で行うであるとか、発信力を高めるということで話したり書いたりする活動を取り組んでいくことが求められている。この10年でかなり授業は変わってきており、授業における教員の発話も半分以上は英語で行っている教員が相当数いるなど、授業が改善されている。また、パフォーマンステストとしては、県独自に作成している長崎県の高校生英会話力テストを県立高校の全生徒を対象に実施している。

3 ICT教育の推進について

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		ICTが完備されて一人一台パソコンが入るということは、先生方がICTを勉強しないといけなくなり、そういった時間をただでさえ残業が多い先生方ができるのかと思う。その準備期間をどうするのか。
	○	忙しい中での研修なので、全ての先生方が自分の仕事のペースに合わせてながらオンラインで受講することができたり、または、それぞれのICTの指導力の程度に合わせたような研修を提供したりしながら、先生方のICT指導力を伸ばしていきたいと考えている。
○		年配の先生方に今からICTを頑張ってくださいと言ったときに、非常に厳しい状況も浮ぶが、その辺の課題はどう考えられているのか。
	○	一人一台端末は文房具と同じなので、いかに使いこなしていくのが大事になってくる。ICTを使った授業をしたことがないという不安を持っている方が一定数、特に年配の先生方はお持ちだと思っている。その不安をいかに払拭していくかが、このICT教育の推進には不可欠であるため、研修を充実させたい。レベル別の研修の実施やオンラインを使いながら、また、オンデマンドでいつでも見れるような状況を作っていくたい。 一人一台端末というのは、生徒たちの情報活用能力を上げていくということ、授業を改善していくという視点もあるが、もう一つは、働き方改革に資するものでありたいという点もある。今まで、教員が作ってプリントアウトして印刷して配って回収していたものをすべてデータでやり取りするといったICTの活用が、働き方改革に資するものであるようにしていきたいと考えている。

**「第三期長崎県教育振興基本計画成果指標の達成状況」及び
「事業群評価数値目標の達成状況」に関する意見等**

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		<p>研修に関してだが、日常的に教育活動で使えないと、効果がないと思うので、研修を1学期に1回、年に3回やってもなかなか力がかからないと思う。継続性を担保するかということで、オンデマンド形式でファイルを学校のフォルダの中に入れて常に見れるような状態にしておく、何回も繰り返し返して見ることができる。常にこういうことがしたいんだけど、どうすればいいのっていう会話が日常的にできるような環境作りに努めていかないといけない。</p>

4 体力の向上と学校体育の推進について

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		<p>「知って、わかって、できて、楽しい」というところには1つ1つ段階があると思っており、長崎出身の学生については、この「知って」ということについては、非常に長崎県の現状を知っているなどと思っている。小学校5年生でのソフトボール投げでは全国平均を上回っているが、中学生になるとハンドボール投げに変わり、全国平均より下回っている。筋力というよりも体の使い方等の握り方や投げ方といったところに課題があり、「わかって」というようなところがうまくいっていないのかなと思う。指導する側の知識も含む研修等を充実させることをしつつ、運動力学的な視点や生理学的な視点を入れることで先生方も興味が湧き、子どもたちに反映されていくと思う。</p>

5 教職員の超過勤務について

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		<p>先生方の超過勤務が月80時間を超えるのは、原因は学校の事務的な仕事なのか部活なのか。</p>
	○	<p>超過勤務の主な原因は、中学校では部活動がこの80時間超えの53.6%で半数程度を占めている。小学校においては、校務分掌、それぞれの学校で分担されている業務又は会議が74%になっている。小中学校の内訳を80時間超えで言えば、小学校の教員のうち0.7%、中学校においては9.2%であり、中学校における80時間超えを抑制していくことが1つ大きな課題である。</p>

**「第三期長崎県教育振興基本計画成果指標の達成状況」及び
「事業群評価数値目標の達成状況」に関する意見等**

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		部活動の原因だけではないような気がする。私どもで調べたところ、それよりもむしろ学校運営に関わる業務、特に教頭先生の80時間超えの方がなかなか減らない。
	○	校長職は、80時間超えをしている職員は1.1%、副校長・教頭が16.5%、その他の教職員は、3.2%ということで、副校長・教頭への業務集中ということが、この働き方改革を進めていく上で課題であると考えている。ICTによる業務の削減ということもあったが、現在、県では統合型校務支援システムを県内全域に広めている取組を進めているところであり、昨年度その検証を行って、1つの成果として、昨年度の12月に1週間その導入校に調査を行った結果、一般教諭においては、1日当たり30分の業務削減、教頭職においては、1日当たり50分の業務削減という成果も出た。これは、繁忙期のため、より鮮明な数字が出たと思っているが、こういう様々な取組を進めながら、先生方の働き方改革を進めていきたいと考えている。

6 その他

委員	事務局	委員から出された意見及び事務局説明
○		行政が関係する機関には、色んな団体をどういう形で活用していくかということを考えられたときに、現役から退いて引退された方も社会に貢献しようとする方々はたくさんいると思う。そういう方々の知恵を借りることが一番大事なことなんじゃないかと思う。そういう方を活用する声を行政から多いに掛けて頂きたい。長崎県として立派な県人を育てていくには県民全員が教師といったお考えを持って、起用していただきたい。
○		婦人会は地域で学校に入ってなにかお手伝いをしたい、学校としては入って頂きたいけど、なにか大変なことをお願いするから、お互い遠慮し合っている。そういうことはやめにして、学校側としても、そんなに遠慮なさらずに、声を掛けて頂く。なにかの役に立ちたい、自分も楽しみたいという方はたくさんいると思うので、そういう関係ができていったらすごくいいかなと感じている。